

アラインド・アシュアランス

アラインド・アシュアランス

オリンパスは、全社で整合されたアシュアランスの達成を目指して、2023年4月1日付でガバナンス、リスク、コンプライアンス機能(略して「GRC」)を設立しました。GRCは、オリンパスの4つの重要なマネジメントシステム(事業継続と危機管理を含むリスク&コントロール、コンプライアンス、プライバシー、情報セキュリティマネジメント)を遂行しています。

これらの機能は連携して、当社が直面しているリスクを特定、評価、軽減、監視することを目指しています。リスク(エクスポージャー、その軽減状況)に対する透明性を高めることで、経営陣は、アラインド・アシュアランスに基づく意思決定をさらに強化するための部門横断的な情報をさらに得ることができます。

GRC機能によって提供されるアラインド・アシュアランスの目的は次の通りです。

- **GUIDE**: リスクと不確実な事象に対処する際に、必要な自信と権限を与えて組織を導きます。
- **PARTNER**: セカンドライン機能としての独立性を通じてビジネスを推進し、情報に基づいた意思決定、賢明なリスクを取ることを可能にする、信頼できるパートナーとなります。
- **SAFEGUARD**: 当社の従業員、評判、業績を保護し、患者さん第一、製品品質、組織を守る盾として機能します。

エンタープライズ・リスクマネジメントの強化

オリンパスグループは、経営戦略に沿った事業目標の実現に向けて、強化されたエンタープライズ・リスクマネジメント(ERM)を実施しています。具体的には、「エンタープライズ・リスクマネジメント規程、リスク管理および危機対応方針」および関連規程に基づき、積極的かつ適切なリスクテイクによる企業の持続的成長と価値創造につながる「攻め」と、違法行為や事故を未然に防ぐ「守り」の両面からリスク

マネジメントに取り組んでいます。

エンタープライズ・リスクマネジメントに対する監督体制

オリンパスグループは、グローバルおよび地域レベルで新たな委員会体制を確立し、グローバルおよびリージョナルリスクアシュアランスおよびコンプライアンス委員会(それぞれG-RACCおよびR-RACC、総称して「RACC」)を設置しました。G-RACCは、CEOとグローバルGRCヘッド/グローバルチーフコンプライアンスオフィサーが共同議長を務め、グループ経営執行会議(GEC)メンバーによる議論を主導します。R-RACCは、各地域の経営執行会議メンバーと共に開催され、各地域の地域代表役員とGRCの地域ヘッドが共同議長を務めます。

RACCの目的は、会社全体のリスクに対処し、適用されるポリシー、法律、規制を遵守するためのフレームワークを確立、実装、管理することです。推奨事項、ガイダンスおよび重大なリスクは、継続的な監視のために、当社のグループ経営執行会議、取締役会、監査委員会に定期的に報告されます。また、オリンパスでは、リスクオーナー(グローバル事業・機能責任者、地域事業・機能責任者、およびリスク管理を担当するリスクコーディネーター)を指名しています。各リスクオーナーは、指定されたリスク領域に必要な対策(組織構造の改善、プロセス整備、重点的な対策の実施など)を実行する責任があります。このフレームワークは、当グループの内部統制フレームワークで定義されているスリーラインモデルの概念に基づいています。内部監査機能は、年間監査計画に基づいて、リスクオーナー(ファーストライン)とGRC機能(セカンドライン)を定期的に監査します。

エンタープライズ・リスクマネジメントのカテゴリー

オリンパスは、5つの最適化したリスクカテゴリー(1.戦略(外部環境変化を含む)、2.オペレーション&製品、3.ファイナンス、4.ガバナ

ス、5.IT&デジタル)、およびそれらを具体化したサブカテゴリーによる、グローバルでのエンタープライズ・リスクマネジメント手法とアプローチを確立しました。

 **事業等のリスク** | <https://www.olympus.co.jp/ir/risk.html>

エンタープライズ・リスクマネジメント評価手法

オリンパスは、当社の事業目標の達成や企業戦略に影響を及ぼす可能性のある個々のリスクを評価して明示するために、次の3つのリスク評価基準(1.エクスポージャー、2.脆弱性、3.速度)を導入しています。エクスポージャーは、発生可能性と影響度によって決定されます。発生可能性はリスクが顕在化する確率を示し、影響度はリスクが顕在化した場合の結果の重大性を示します。発生可能性と影響度は、定量的(財務的)または定性的な基準として評価します。

脆弱性とは、リスクが発生した場合に組織がどの程度適切にリスクを管理する準備ができていないかを指します。速度とは、リスクが発生した後、当社がどの程度速く影響を受けるかを示します。これら3つの基準に基づいて、積極的にリスクを特定、軽減、監視します。軽減策は定期的にレビューされ、有効性がテストされます。加えて、リスクを視覚化して管理するために、いわゆる3Dリスクマトリックスを導入しました。これは、エクスポージャーと脆弱性を組み合わせた評価に速度を追加します。マトリックスは4つの象限に分かれています。それぞれがリスクに対処する方法を示しています。加えて、データベースとダッシュボードに基づく最新のITアプリケーションを導入し、十分な情報に基づくリスクベースの意思決定を行うための支援も行っています。

エンタープライズ・リスクマネジメント・プロセス

当社のエンタープライズ・リスクマネジメント・プロセスの主な構成要素は以下の通りです。

- **リスクアセスメント**: リスクを特定、分析、評価する。

- **リスクリートメント**: リスクを軽減し、リスクマネジメント活動を調整および実行する。
- **リスクモニタリング**: リスクモニタリングの手順を設計および実装し、リスクリートメント活動の有効性を評価します。
- **リスク報告**: リスクと軽減策を集計および評価し、関連するステークホルダーに定期的に報告します。リスク報告は、年間計画の一環として社内ですべて展開されます。

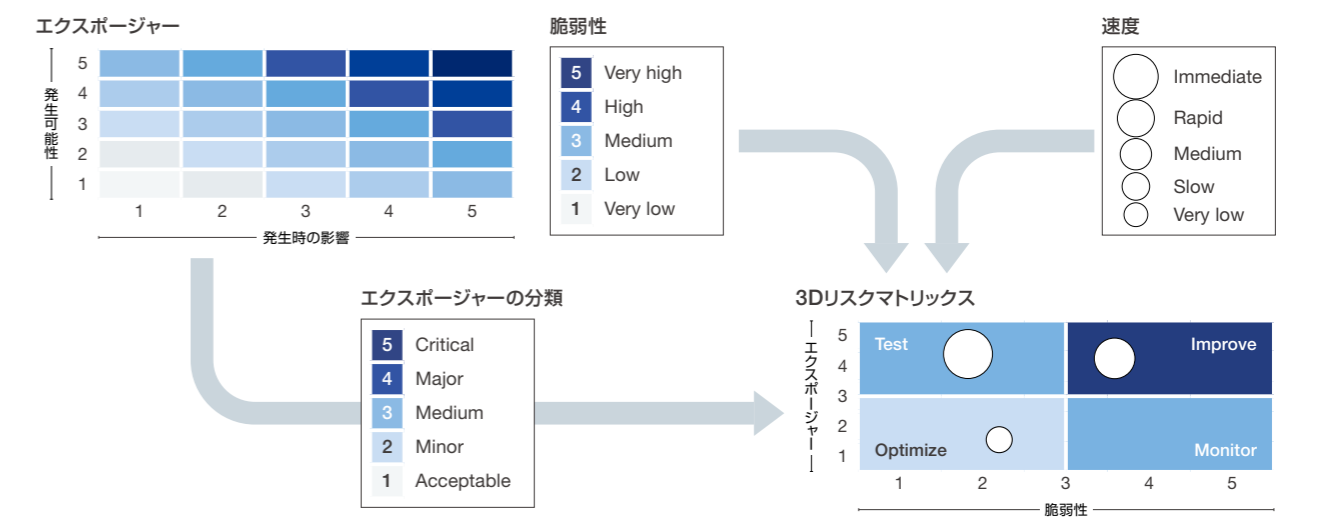
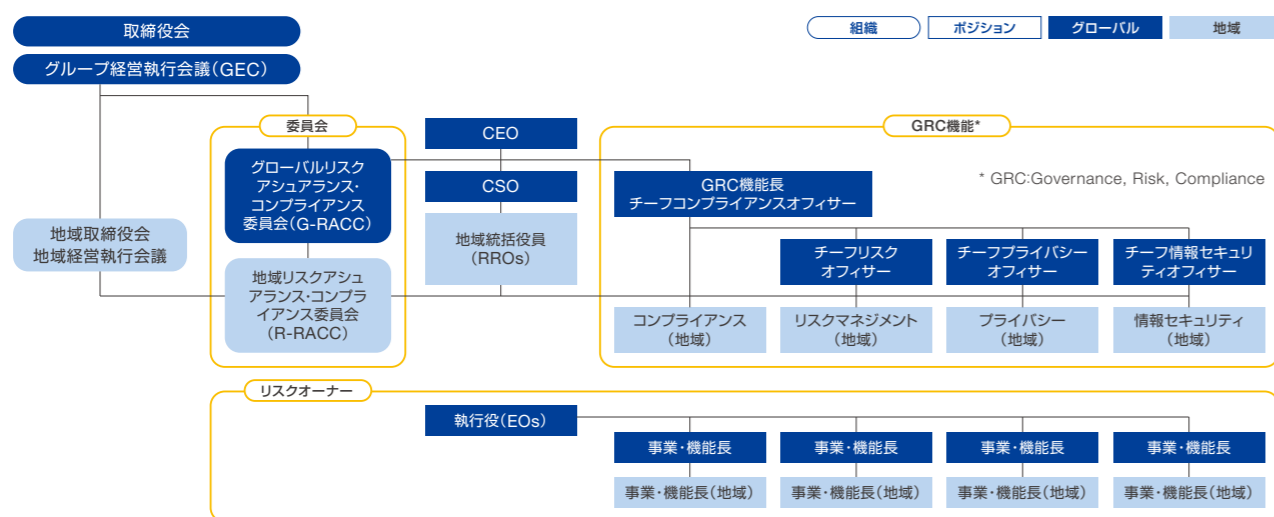
当社グループの主要リスクへの対応状況は、継続的にモニタリングされ、グループ経営執行会議、取締役会、監査委員会に定期的に報告されます。エンタープライズ・リスクマネジメント・プロセスは、スリーラインモデルの原則に従って、リスク&コントロール部門と各事業・機能との強力な連携に基づいています。グローバルレベルと地域レベルの両方で、これらのグローバルに整合したERMプロセスを実行しています。リスク&コントロールは、ERM手法と運用ガイダンスの策定、提供、維持を担当し、新しい組織とERM手法の社内への普及を推進しています。リスクオーナー、リスクコーディネーター、およびその他のセカンドライン機能とのトレーニングとワークショップを通じて、ビジネスオペレーションレベルでリスク文化を継続的に育成しています。



事業継続マネジメント(BCM) / 事業継続計画(BCP)

事業継続マネジメント(BCM)に関しては、バリューチェーンを重視した実用的な計画の策定に努めています。これをサポートするため、BCMに関する社内規程および細則を確立し、BCMの実践の改善に継続的に取り組んでいます。さらに、BCMの有効性を高めるた

組織体制(FY2024)



アラインド・アシュアランス

めに、定期的な教育およびトレーニングプログラムを実施しています。2024年3月期には、ERMとBCMの活動をより緊密に連携させることを決定しました。エンタープライズ・リスクを特定・評価することで、リスク軽減策の一環として、リスクエクスポージャーの高いリスクに対して（脆弱性・スピードを考慮して）事業継続計画（BCP）を策定します。

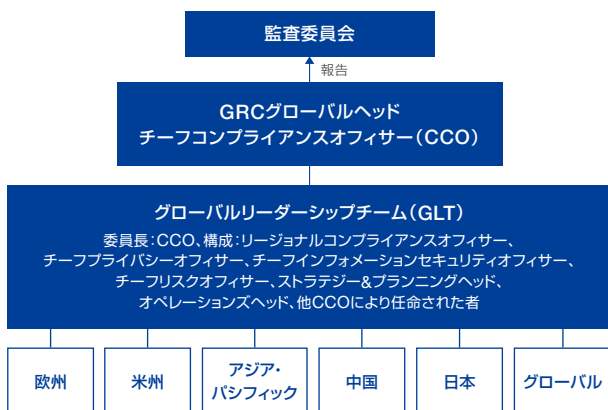
コンプライアンス

オリンパスは、誠実で法令を遵守する企業風土の醸成に努めています。当社では、創業100年以上の歴史で培われた「イノベーション」「社会貢献」「誠実さ」を基本に据え、「オリンパスグローバル行動規範」を制定しています。「オリンパスグローバル行動規範」は、オリンパスの方針の基盤であり、グローバルな企業活動において経営層および従業員はこの規範に則って行動しています。

コンプライアンス推進体制

オリンパスのグローバルコンプライアンス部門は、経営層および従業員が誠実にビジネスを行い、そしてお客様やビジネスパートナーを公正に扱い、懸念が生じた場合には通報を可能にするために必要なリソースとトレーニングを提供することで、「オリンパスグローバル行動規範」および会社方針の周知徹底を図っています。オリンパスグループは、すべての関係において、最高水準のビジネスインテグリティに従うビジネス文化の醸成に努めています。CEOは、オリンパスグループの事業活動において適用される法令を遵守する責任を負い、オリンパスグループ内のコンプライアンスマネジメントシステムの責任者であるグローバルチーフコンプライアンスオフィサー（CCO）を任命しています。取締役会および監査委員会は、CCOからコンプライアンス活動に関する報告を定期的に受けるとともに、必要に応じてCCOと協議しています。CCOは、グローバルリーダー

コンプライアンス推進体制図（2024年4月現在）



シップチーム（GLT）のメンバーと共に、地域のビジネス拠点において関連する内部規則が遵守され、CCOが監督するマネジメントシステムの要件に従い、ベストプラクティスを反映したコンプライアンス活動が実施されていることを確認します。2024年3月期において、CCOは各地域のコンプライアンスプログラムをグローバルに調和し、最終的にはシステム化するため、引き続きコンプライアンスプログラムの発展を主導しています。

インテグリティ・ライン（グローバル通報窓口）

オリンパスは誠実な企業文化を重視し、すべての従業員が質問や懸念を表明できる安全でオープンな職場を提供しています。当社は、懸念事項の報告を希望するすべてのオリンパス社員、ビジネスパートナー、およびその他の第三者が利用できるグローバルな報告システム「オリンパス・インテグリティ・ライン」を提供しており、独立した第三者によって管理されています。コンプライアンス部門は、地域および部門横断的なチームを組織して会合を定期的に行き、チームメンバーの協力のもと報告システムとプロセスの有効性を継続的に改善しています。2024年3月期も、ポリシー違反に対する追跡調査の強化、利益相反の地域別報告の統合、グローバル内部調査委員会の設置を定め、社内調査プロセスの枠組みを整理した「オリンパス内部調査ポリシー」のグローバル展開などを行い、懸念があれば場所や部署にかかわらず、同じ高い基準で確実に調査・処理すべく改善を図っています。グローバルコンプライアンス機能は「オリンパスグローバル行動規範」についての一貫したメッセージ、関連するeラーニングやコミュニケーションなどを通じて、このシステムの周知を図っています。2024年3月期は、インテグリティ・ラインなどを通じて673件の通報がありました。適切な調査の結果、不正行為が立証された場合、オリンパスはポリシーやプロセスの修正、個人／グループへの研修・教育制度の強化、個人への警告、深刻な場合には解雇を含む是正措置を、現地の規制に従って実施します。2024年3月期は、処理が完了した通報のうち64%が審査を経て、その是正処置が立証されました。

コンプライアンス教育

グローバルコンプライアンス部門では、コンプライアンス意識の啓発および重要法令や社内規程の理解促進と遵守徹底を目的に、コンプライアンス教育の充実を図っています。2024年3月期のグローバルにおける取り組みは以下の通りです。

贈収賄・腐敗防止関連の 集合研修・eラーニング	受講対象者数：24,925名 受講完了者数：24,017名 (受講率約96%)
オリンパスグローバル行動規範関連の 集合研修・eラーニング	受講対象者数：25,411名 受講完了者数：22,336名 (受講率約88%)

詳しくはWEBをご覧ください

オリンパスグローバル行動規範: <https://www.olympus.co.jp/company/philosophy/code.html>
コンプライアンス: <https://www.olympus.co.jp/csr/governance/compliance/>